高知工業高等専門学校　令和６年度　数理･データサイエンス･AI 教育プログラム自己点検･評価（案）　P1

資料1

評価日時：令和7年3月24日
会議名称：高知工業高等専門学校自己点検･評価委員会
　　　　　数理･データサイエンス･AI教育プログラム専門部会
開催場所：高知工業高等専門学校
目　　的：令和6年度　数理･データサイエンス･AI教育プログラムの自己点検･評価
評価項目：高知工業高等専門学校自己点検評価委員会　数理･データサイエンス･AI 教育プログラム専門部会規則　第2条第1項に掲げる項目

自己点検･評価の視点	内部評価	評 価 理 由
1．プログラムの履修･修得状況（第2条第1項第1号）	B	必履修科目で開講しており，令和3年度から令和6年度入学生に係る本プログラム対象科目の履修率は100％となっている。修得状況は，ICTを積極的に活用しており，Google Classroom等を活用し，学習状況の把握に遅延が生じないように工夫している。
2．学修成果（第2条第1項第1号）	B	各授業担当者および教務委員会にて履修･単位取得の状況は把握されている。また，授業評価アンケートを実施している。本アンケートを確認する範囲では，受講した学生の理解度などは高く，学習成果があるように伺うことができる。さらに，履修者の総合成績評価は学内の成績処理システムにて管理され，クラス担任や教員と情報共有している。
3．学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度（第2条第1項第2号）	B	本プログラム履修学生に対して，授業評価アンケートを実施し，AL教育センターにおいて結果の集約･分析を行っている。また，アンケート集約結果は授業担当教員と共有しており，学生からのアンケート結果に対する担当教員からのコメントを集約し，それらを取りまとめ，教職員および学生に対して公開している。さらに，アンケートは継続的に実施する予定である。これらを通して，教職員のみならず，学生も自分たちで授業への理解度等を客観的に 見渡すことができる仕組みを構築する。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。
B：審査項目の観点通りの成果を達成した。
C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。
D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

高知工業高等専門学校　令和６年度　数理･データサイエンス･AI 教育プログラム自己点検･評価（案）　P2

自己点検・評価の視点	内部評価	評 価 理 由
４．学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度（第2条第1項第2号）	B	本プログラムに関わる科目は、すべて第3学年以下に設定し、必履修および修得を促す規則としている。
５．全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況（第2条第1項第3号）	B	必履修科目で開講しているので，関係科目の学年ごとの履修率は100％となっている。
６．教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価（第2条第1項第4号）	―	令和7年3月末で、300名の本プログラム修了者がいるが、まだ卒業していない。
７．産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見（第2条第1項第5号）	B	本プログラムの内容および手法については，令和3年度参与会にて委員から高い評価を得ている。また，令和5年度参与会において，「AIの利活用ができる人材を育成し，社会に送り出してほしい」との要望がある。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。
B：審査項目の観点通りの成果を達成した。
C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。
D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。